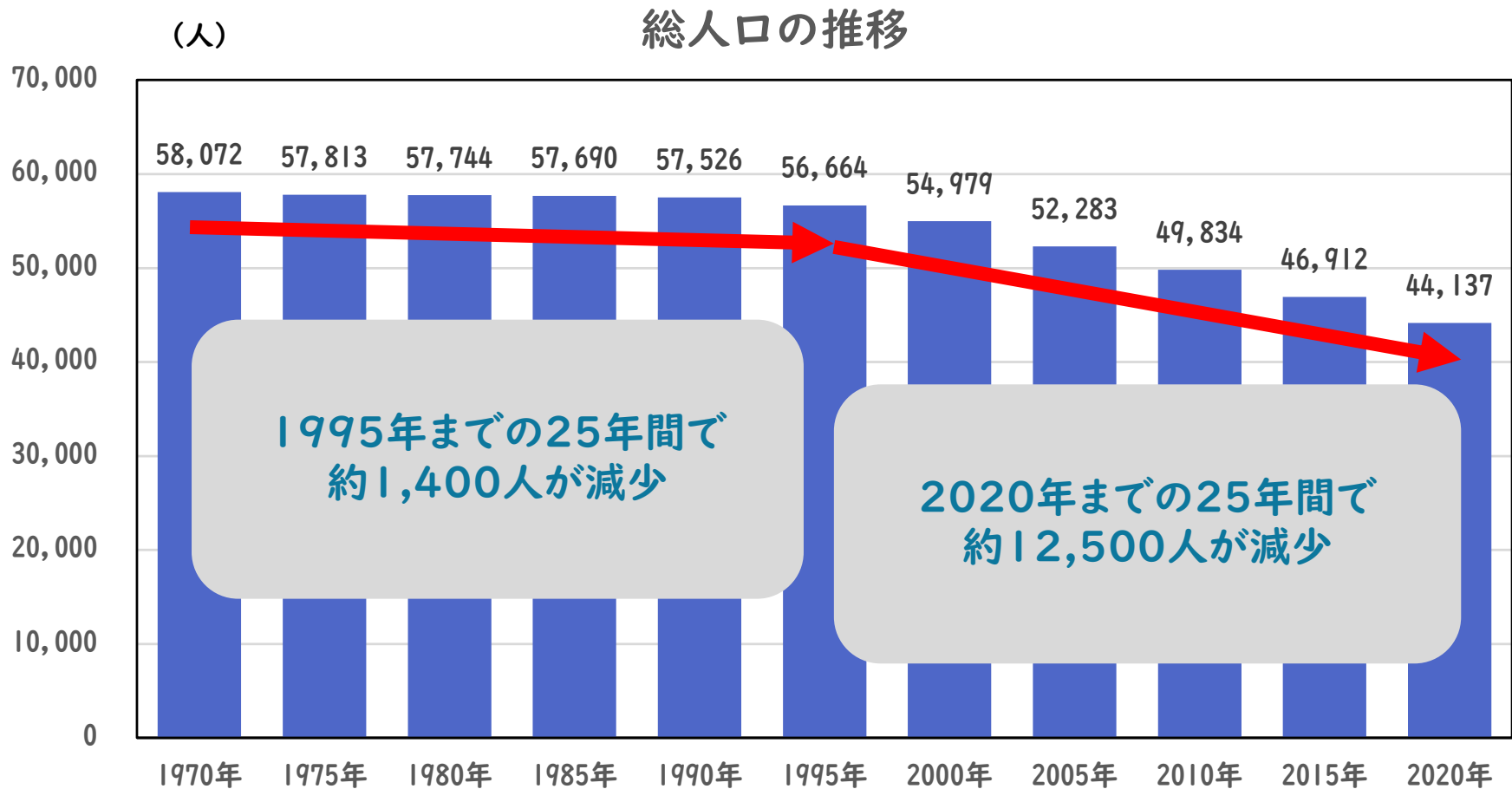


南あわじ市 将来人口の展望

これまでの人口動向

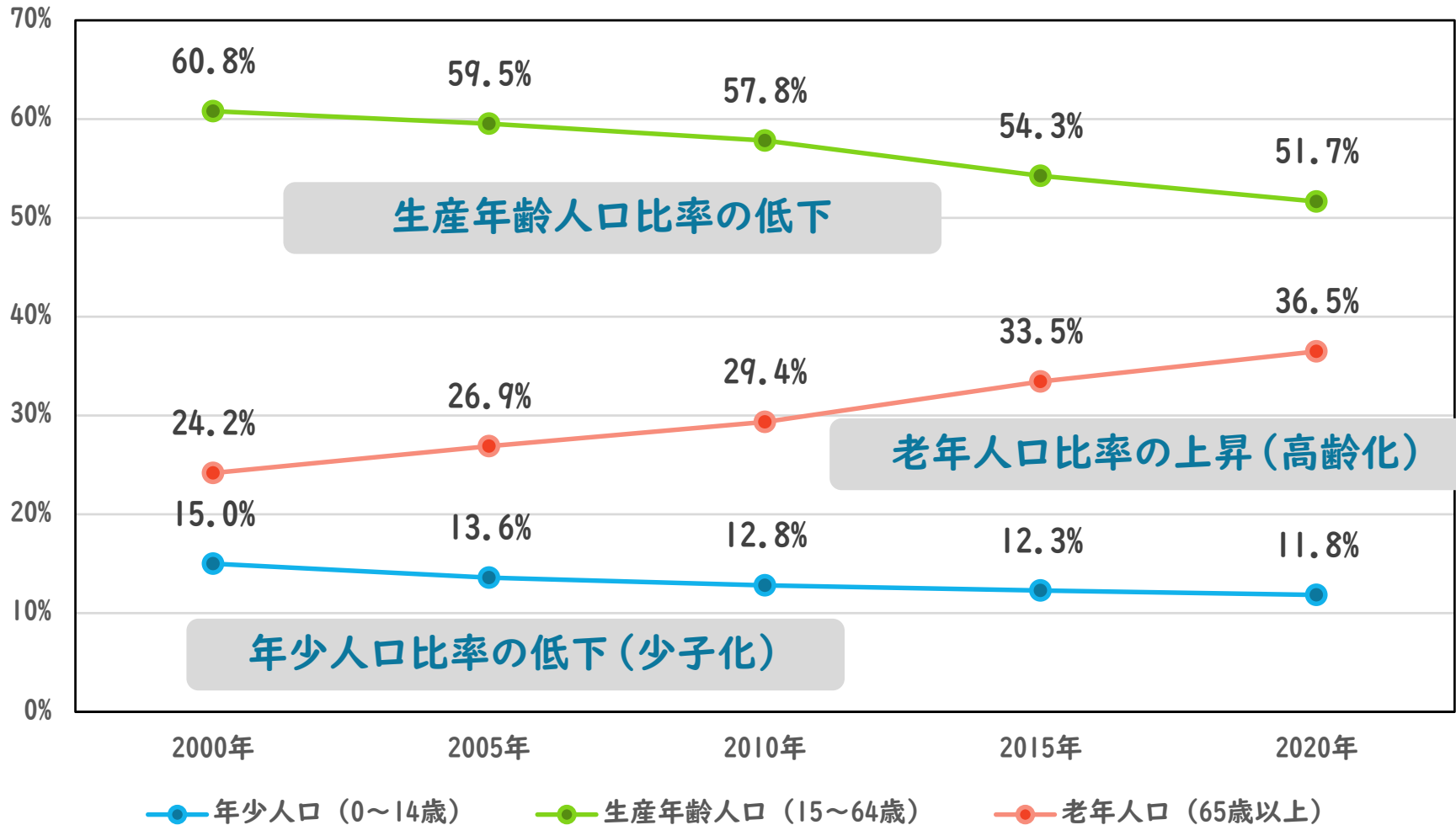
- 過去50年間、一貫して減少傾向で推移。
- 特に1990年代以降、減少傾向が顕著化。



これまでの人口動向

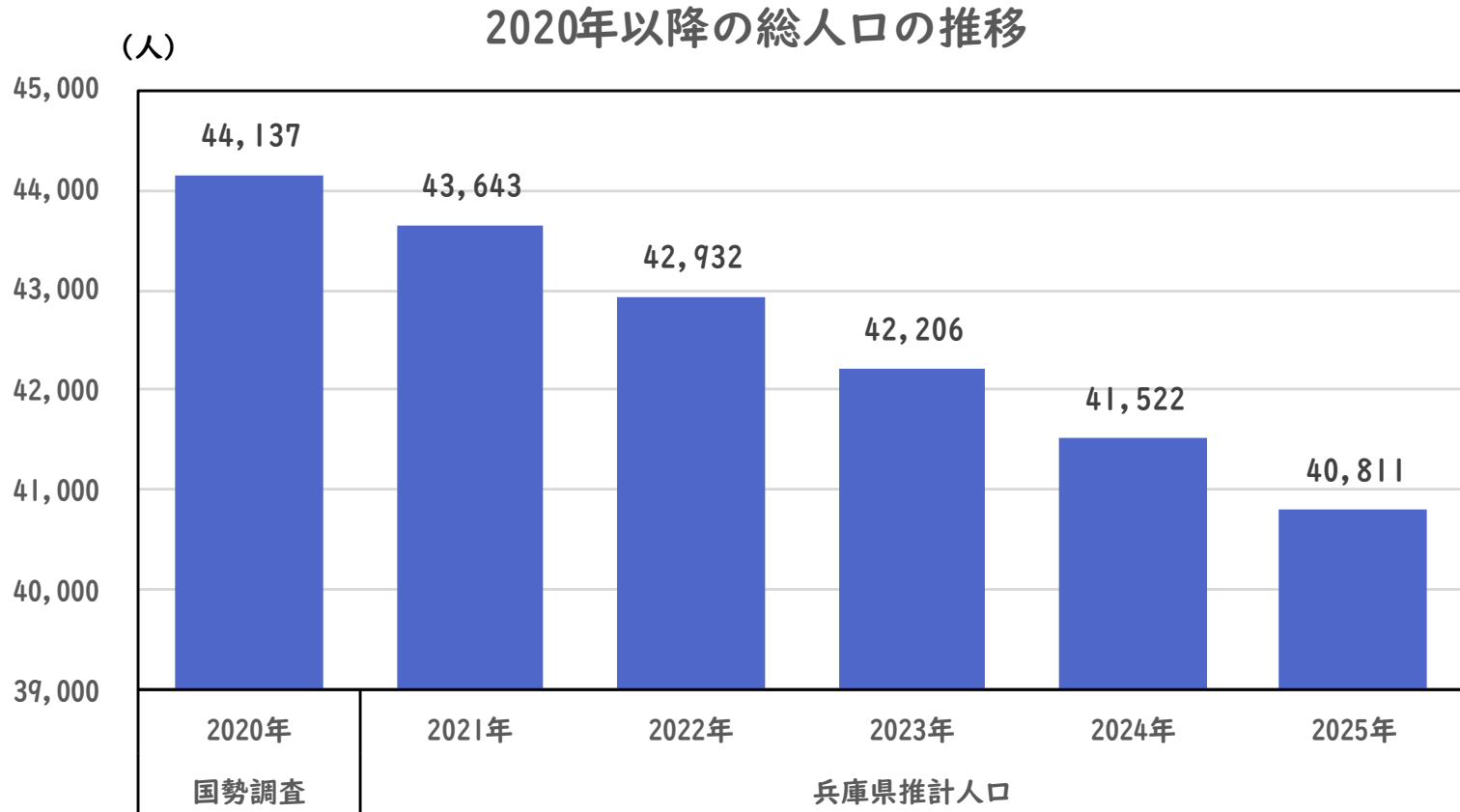
➤ 少子・高齢化と生産年齢人口比率の低下。

年齢構造の推移



これまでの人口動向

➤ ここ5年間では、約3,300人の減少。

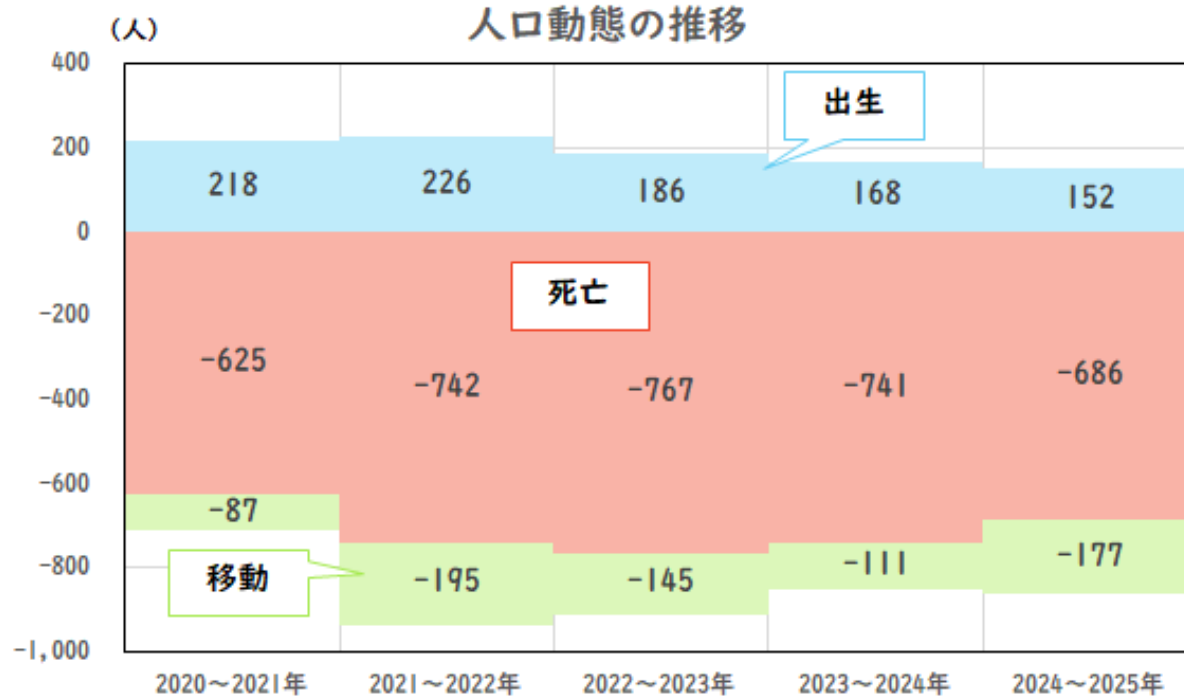


※兵庫県推計人口は、直近の国勢調査による人口を基点に、その後の出生数・死亡数・転入数・転出数の加算・減算により、国勢調査ベースでの人口を計算（推計）している。

※各年10月1日現在。

これまでの人口動向

➤ 人口減少の最大要因は、高齢化に伴う死亡者数の多さ。



	人口動態	自然動態			社会動態 (移動)		
		出生	死亡	転入	転出		
2020~2021年	-494	218	-625	1,186	-1,273		
2021~2022年	-711	226	-742	1,320	-1,515		
2022~2023年	-726	186	-767	1,449	-1,594		
2023~2024年	-684	168	-741	1,374	-1,485		
2024~2025年	-711	152	-686	1,411	-1,588		
5年間 計	-3,326	950	-3,561	6,740	-7,455		

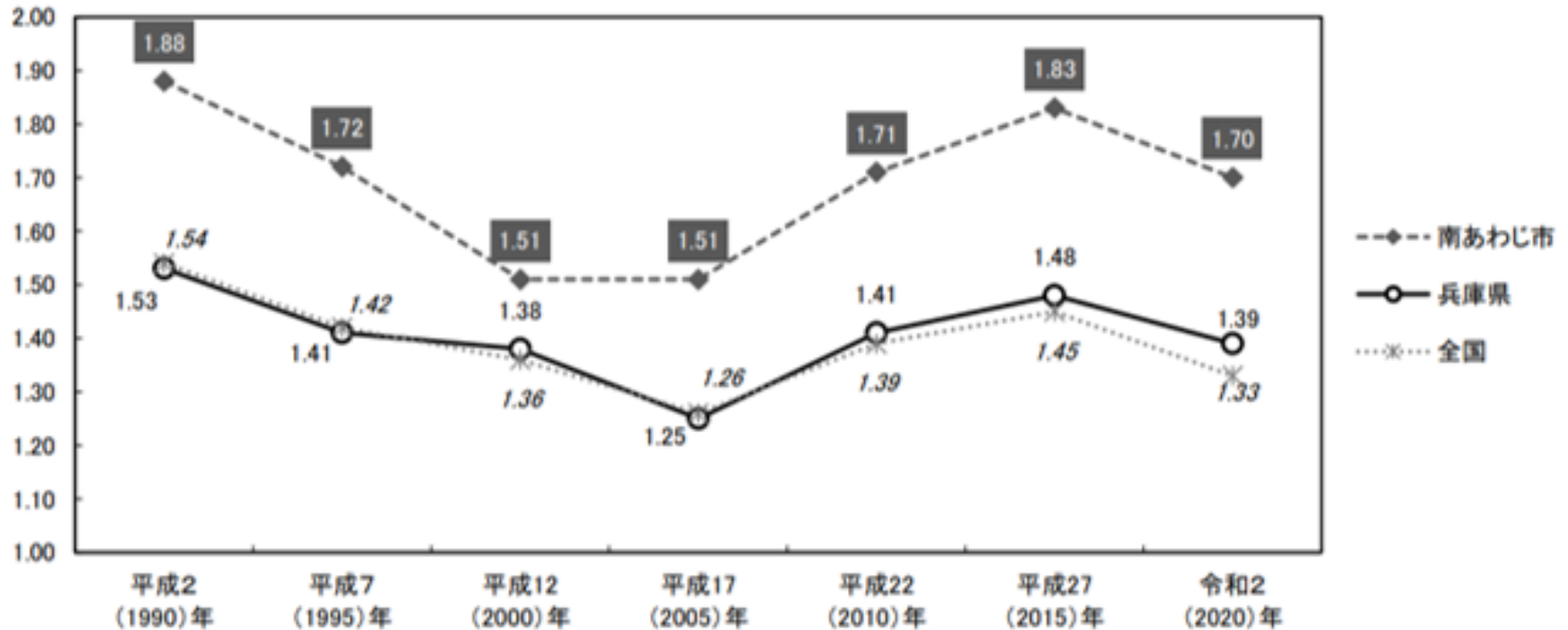
※データは、兵庫県推計人口による。

※各年10月1日から翌年9月30日までの集計値。

これまでの人口動向

- 合計特殊出生率は全国・県と同様に下降傾向
- 出生数も2005年以降減少傾向で推移

■合計特殊出生率の推移



	2005年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
出生数	401	382	362	281	211	219	184	156

資料：兵庫県保健統計年報

これまでの人口動向

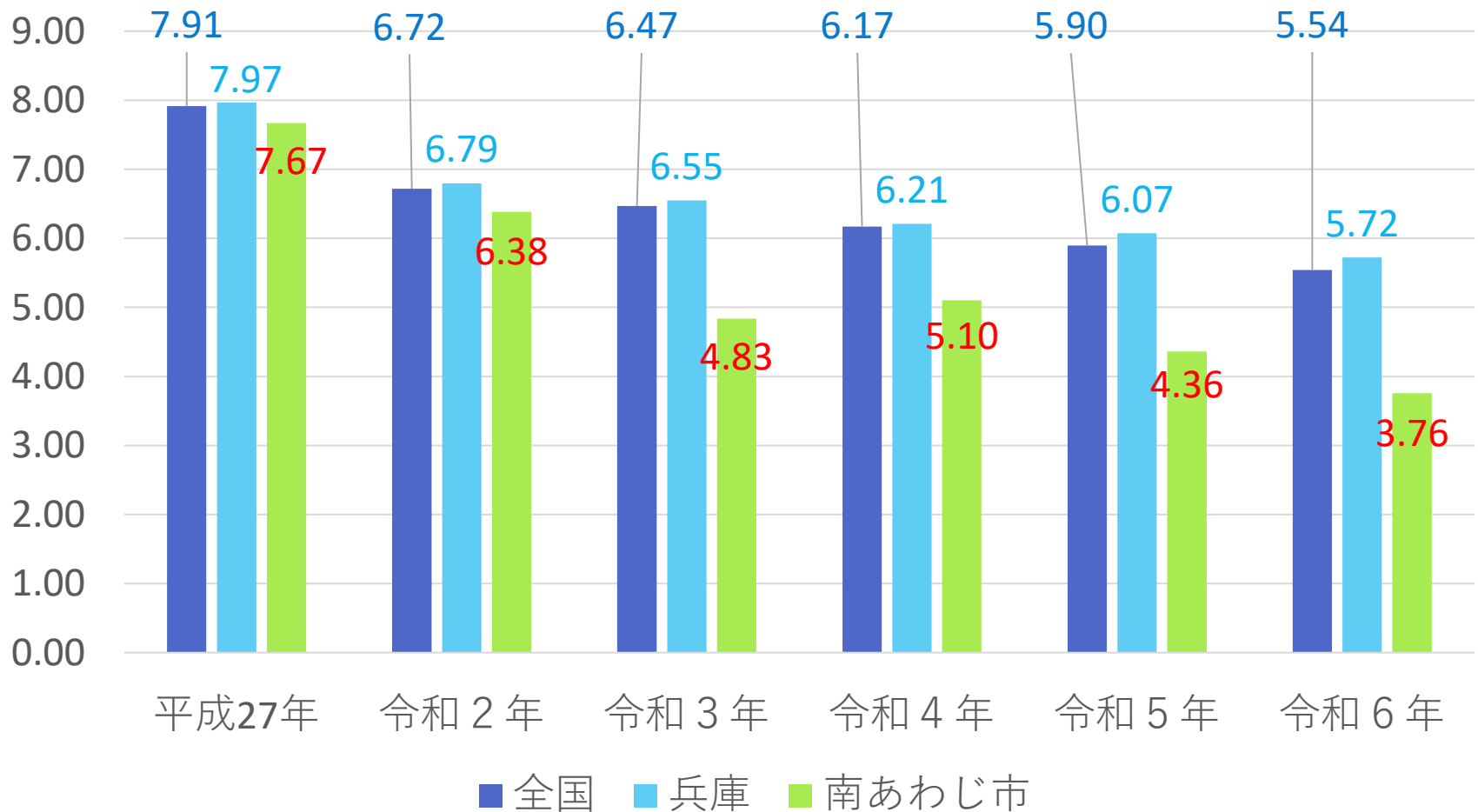
合計特殊出生率の算定対象となる15歳～49歳の女性人口の割合は年々低下

年	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
15～49歳女性人口	8,602	8,458	8,238	8,028	7,795	7,605	7,413	7,145	6,854	6,603
全人口に占める割合	17.6%	17.6%	17.2%	17.0%	16.7%	16.5%	16.3%	16.0%	15.6%	15.3%
年代別女性人口割合										
15～19歳女性人口割合	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.2%	2.2%	2.3%	2.3%	2.2%	2.2%
20～24歳女性人口割合	2.0%	1.9%	1.9%	1.9%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%
25～29歳女性人口割合	2.1%	2.0%	1.9%	1.8%	1.7%	1.6%	1.5%	1.5%	1.4%	1.4%
30～34歳女性人口割合	2.4%	2.4%	2.4%	2.3%	2.2%	2.1%	2.0%	1.9%	1.8%	1.7%
35～39歳女性人口割合	2.7%	2.6%	2.5%	2.5%	2.6%	2.6%	2.6%	2.5%	2.5%	2.4%
40～44歳女性人口割合	3.2%	3.3%	3.1%	2.9%	2.9%	2.8%	2.7%	2.7%	2.7%	2.7%
45～49歳女性人口割合	2.8%	3.1%	3.1%	3.3%	3.3%	3.4%	3.4%	3.3%	3.1%	3.1%

資料：指定区別年齢別男女別人口調を加工して作成

これまでの人口動向

➤ 人口1,000人あたりの出生数は近年、急速に低下

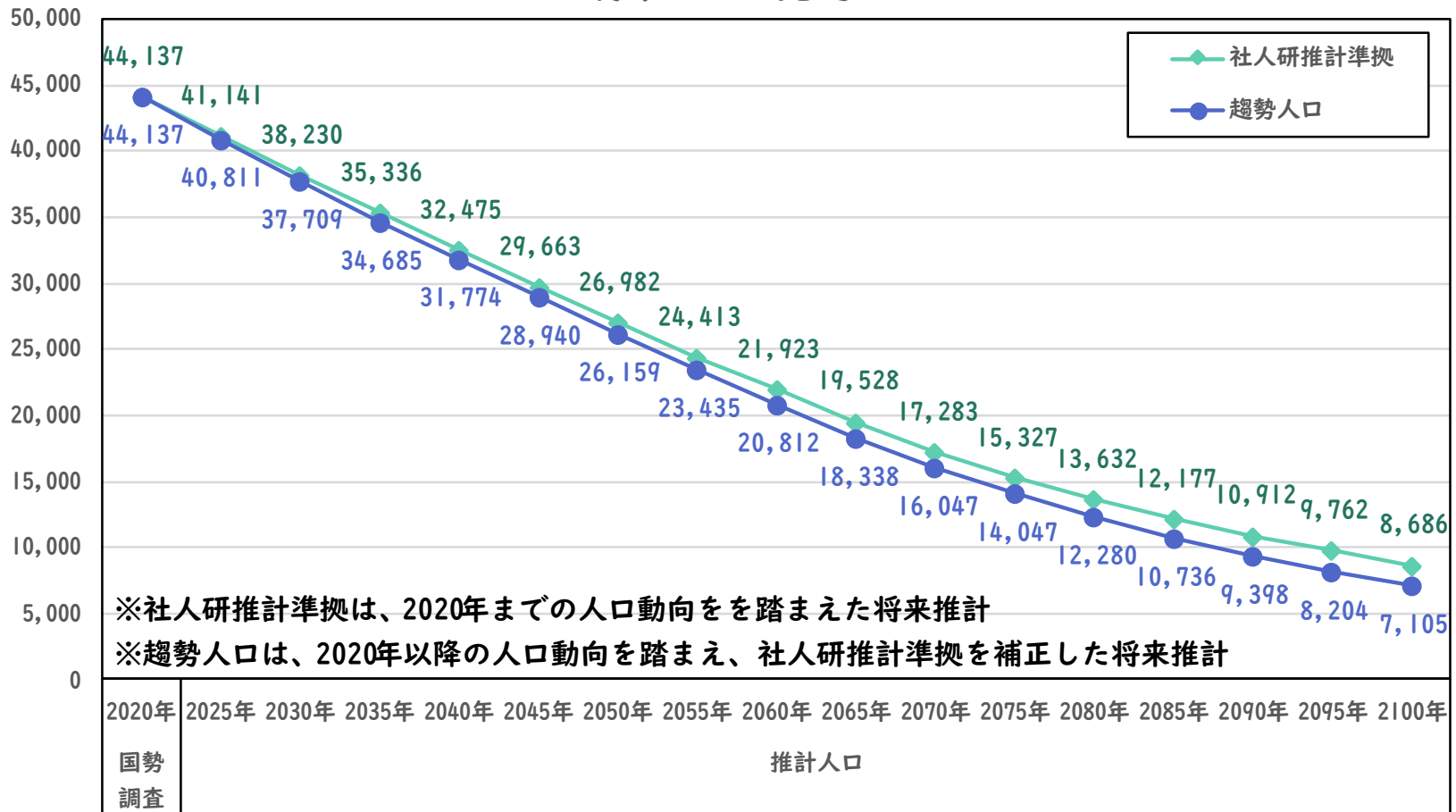


資料：兵庫県市区町別主要統計指標を加工して作成

将来人口の見通し(趨勢人口)

- 近年の人口動向が今後も続くと仮定した将来人口(趨勢人口)では、2060年には人口が半減し約20,800人、さらに2090年には10,000人を下回る見通し。

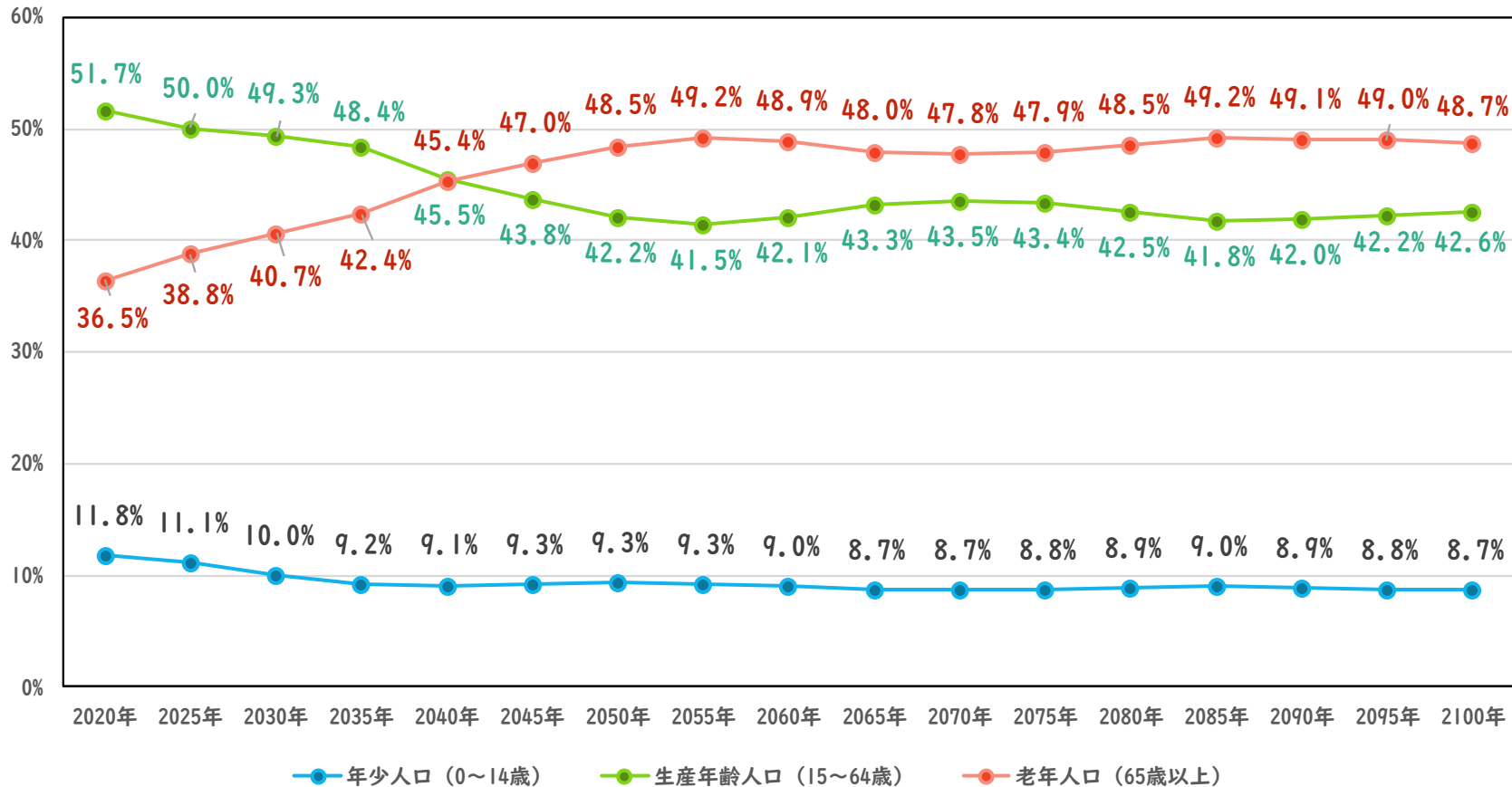
将来人口の見通し



将来人口の見通し(趨勢人口)

➤ 高齢化率は今後も上昇し、2050年代以降は長期的に49%前後で推移。

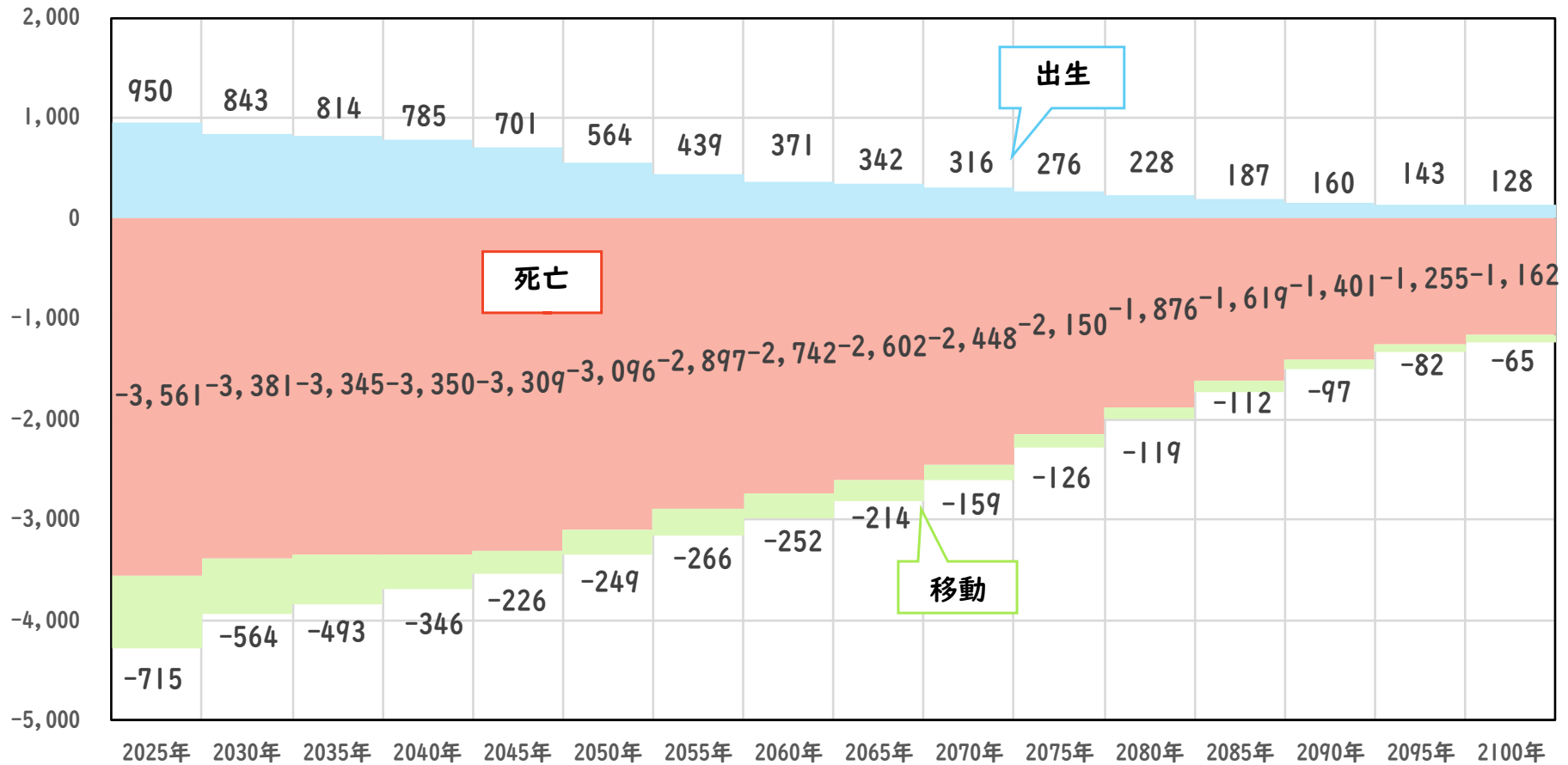
年齢構造の推移(趨勢人口)



将来人口の見通し(趨勢人口)

人口動態の推移 (趨勢人口)

(人)

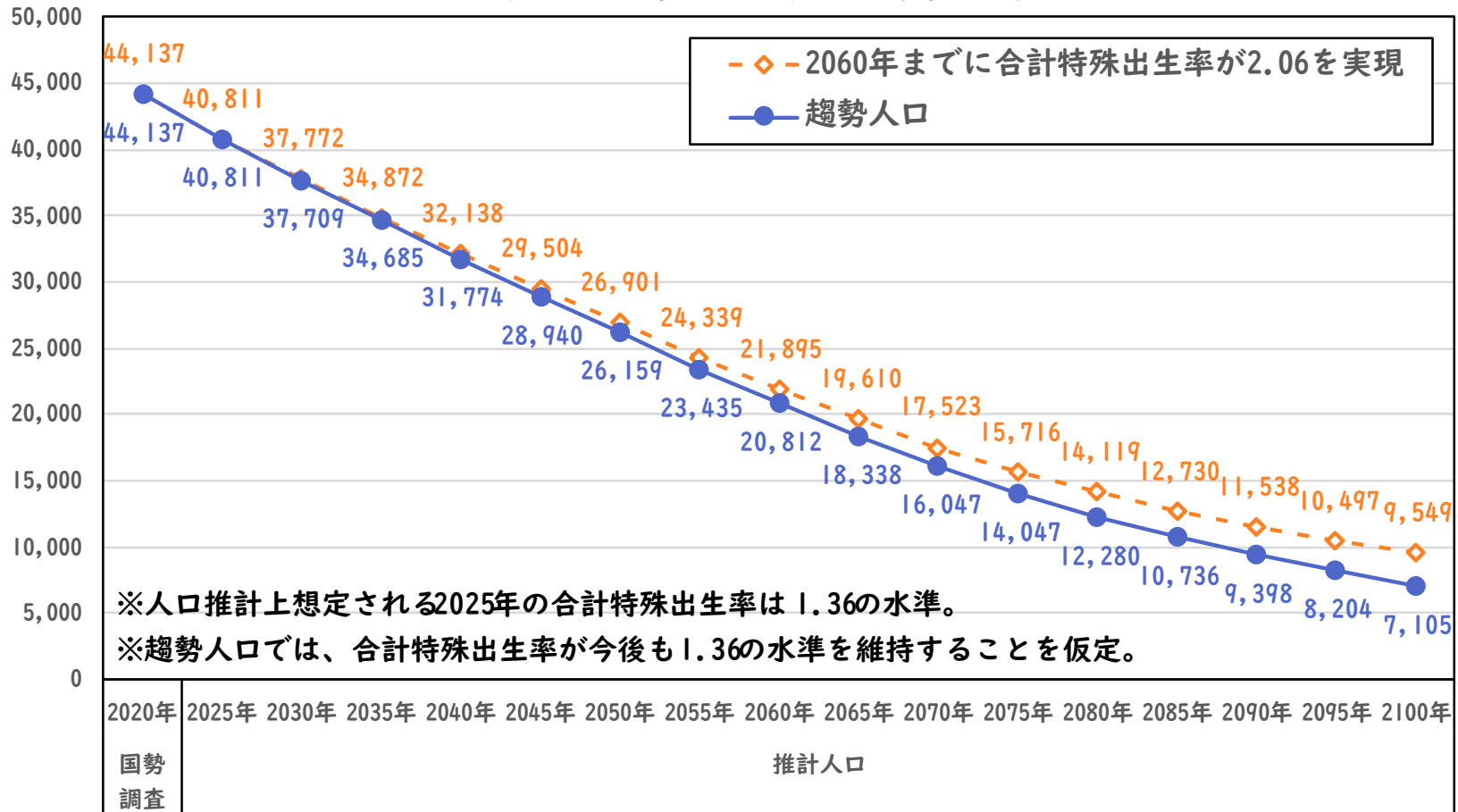


- 人口減少の最大要因は死亡者数であるが、将来人口の見通し(趨勢人口)においては将来的な長寿命化等も織り込み済みであり、人口構造の高齢化が進んだ中で、死亡者数の大幅な減少を仮定することは現実的ではない。
- したがって、人口減少の抑制策としては、**出生状況の改善と移動状況の改善の2つの視点**から考える必要がある。
- 加えて、総人口といった人口規模だけではなく、例えば、経済活力創出の担い手とも言える生産年齢人口の比率など、**年齢構造の変化**にも着目することも重要になる。

将来人口の見通し(出生改善)

- 合計特殊出生率が2060年までに2.06にまで改善すると、人口減少はやや緩やかになるものの減少傾向に歯止めはかからない。

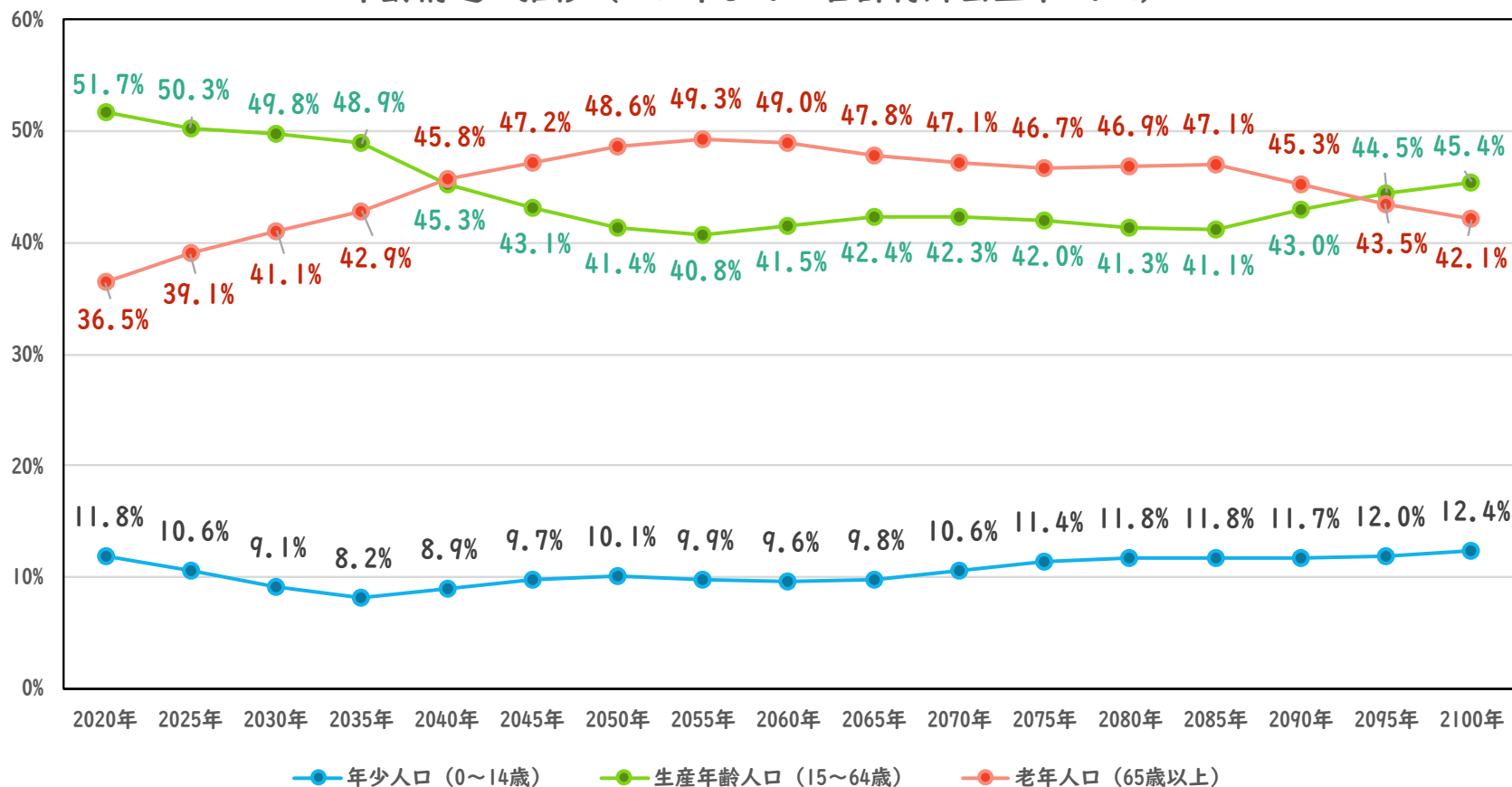
出生状況が改善した場合の将来見通し



将来人口の見通し(出生改善)

- 高齢化率は、2050年代をピークに低下傾向にシフト。
- 年少人口比率も緩やかに上昇し、生産年齢人口比率も2085年以降は上昇傾向にシフト。

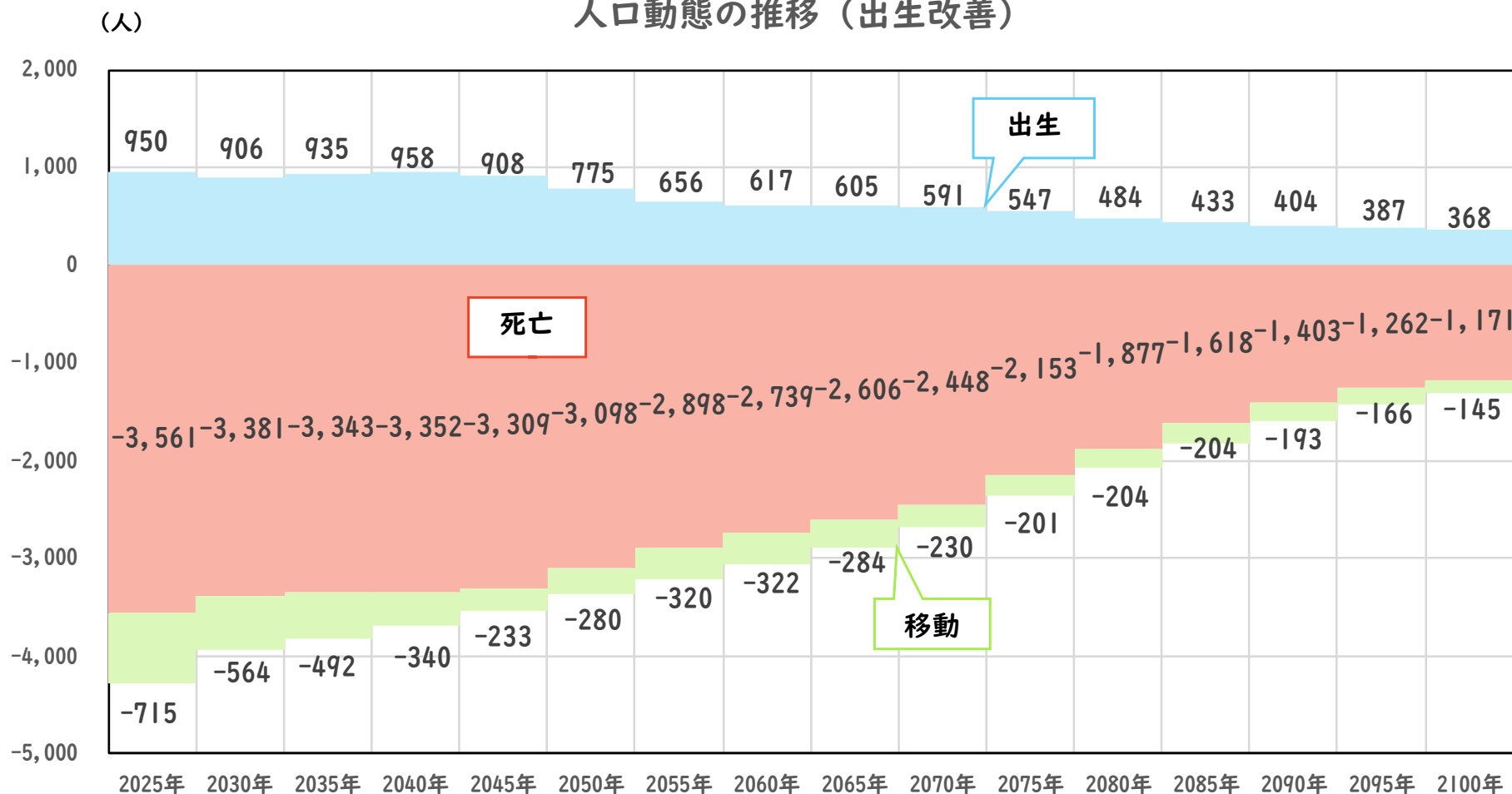
年齢構造の推移 (2060年までに合計特殊出生率 2.06)



将来人口の見通し(出生改善)

- 趨勢人口に比べれば出生数は増えるものの、出生数の減少傾向に歯止めを掛けるには至らない。

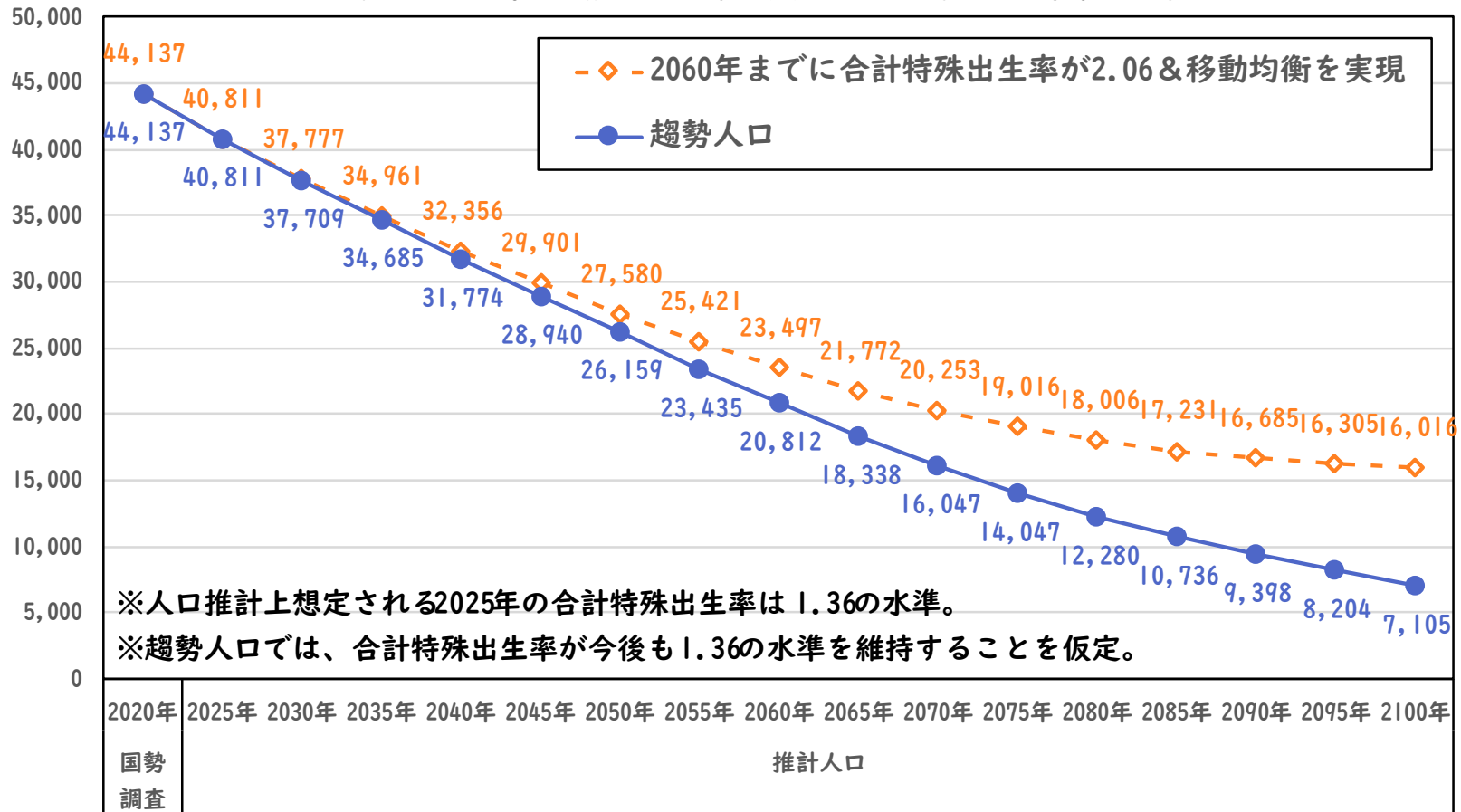
人口動態の推移 (出生改善)



将来人口の見通し(出生改善&移動均衡)¹⁶

- 2060年までに合計特殊出生率2.06と移動均衡を実現すると、2060年で約23,000人、2100年以降は16,000人程度の人口規模を維持。

出生状況の改善&移動均衡を実現した場合の将来見通し



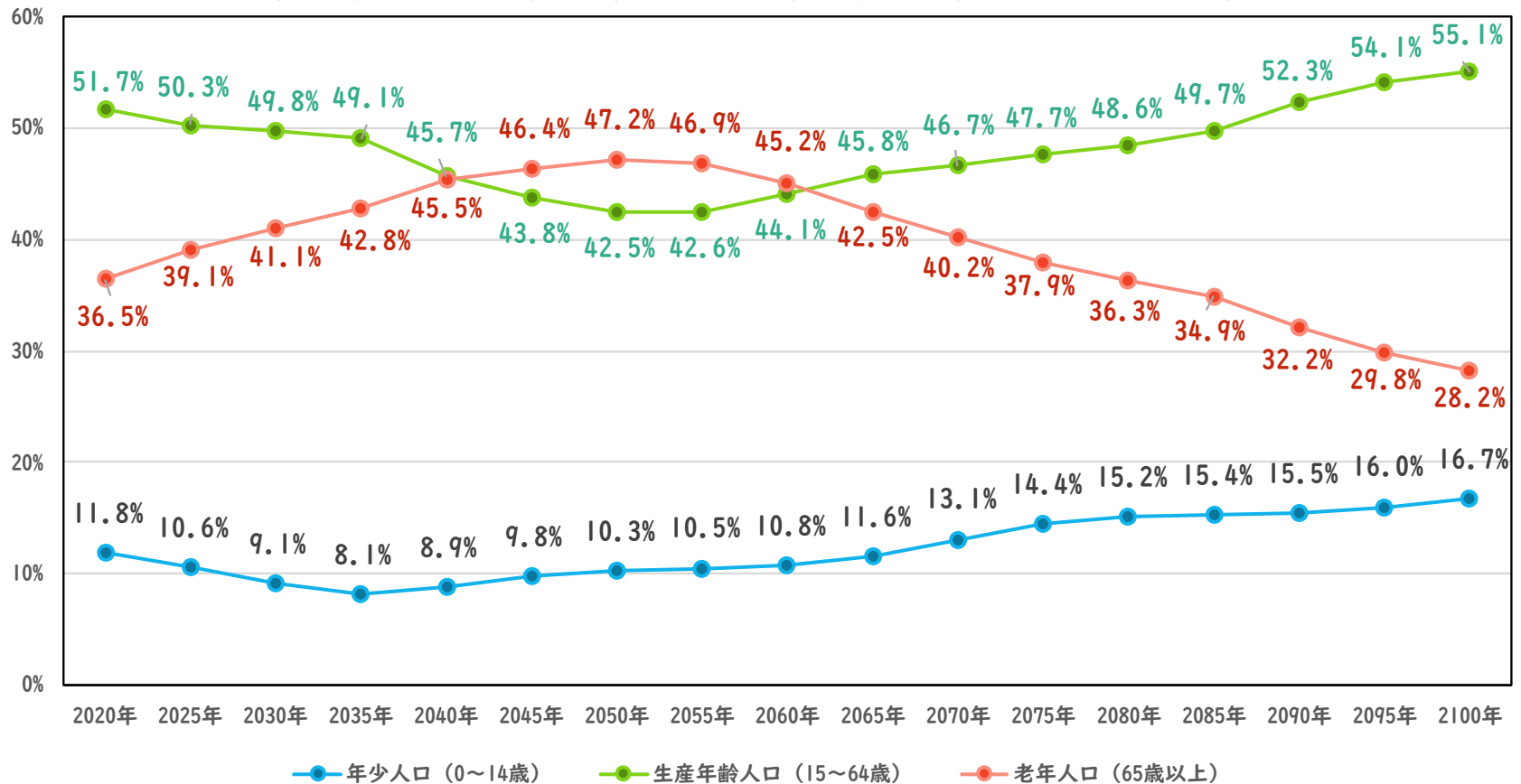
2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 | 2050年 | 2055年 | 2060年 | 2065年 | 2070年 | 2075年 | 2080年 | 2085年 | 2090年 | 2095年 | 2100年

国勢調査 | 推計人口

将来人口の見通し(出生改善&移動均衡)¹⁷

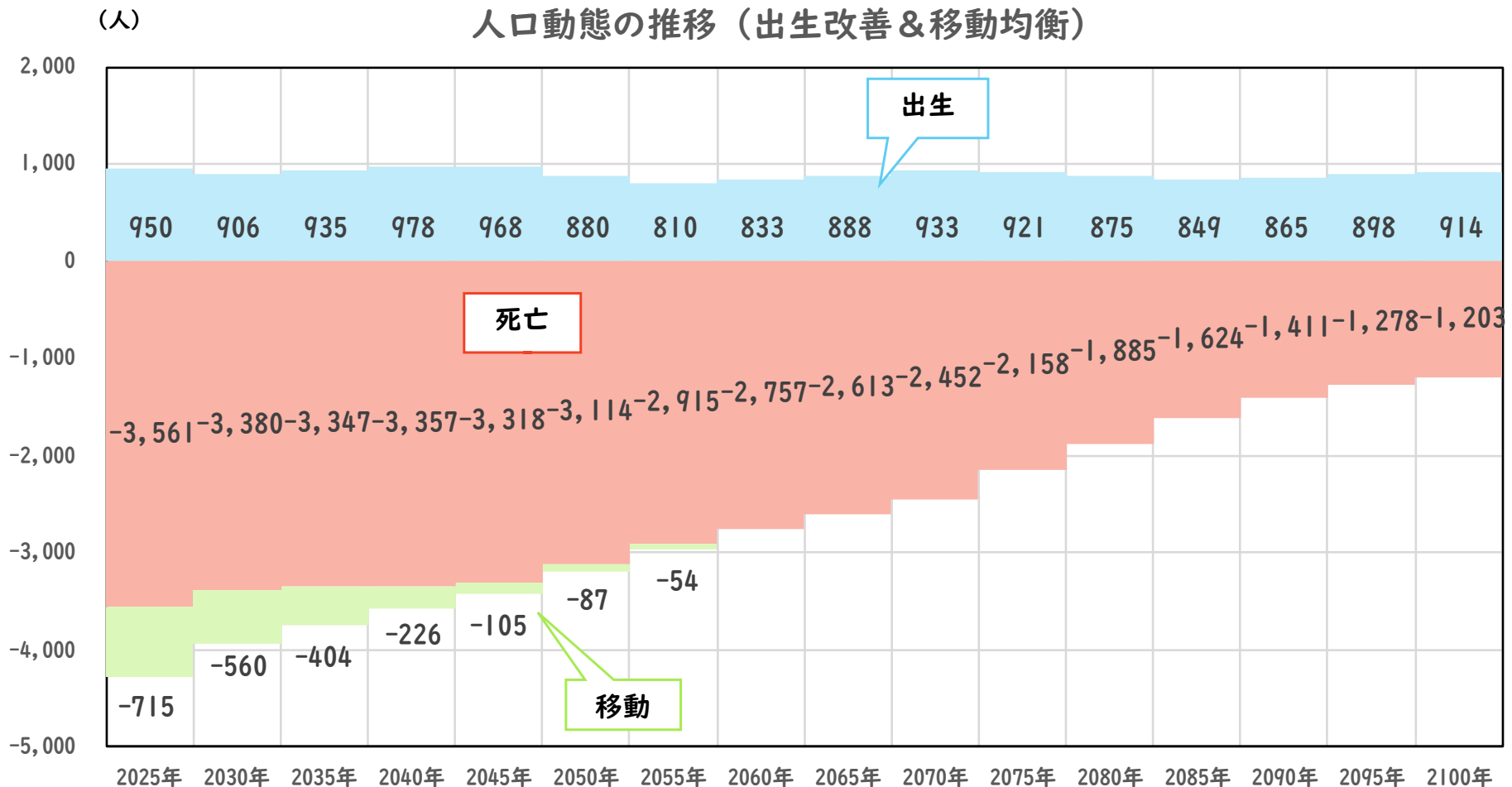
- 高齢化率が、2050年代以降、大幅に改善。
- 生産年齢人口比率も2050年代以降は大きく上昇し、年少人口比率も長期的に大きく改善。

年齢構造の推移 (2060年までに合計特殊出生率 2.06&移動均衡)



将来人口の見通し(出生改善&移動均衡)¹⁸

- 出生数の減少に歯止めが掛かり、死亡数を補うレベルにまで出生数が増加する流れが生まれる。



将来人口の見通し(出生改善&移動均衡)¹⁹

- ここまでに示したように、2060年までに合計特殊出生率が2.06にまで改善し、また、移動均衡が実現されることで、長期にわたった人口減少に歯止めを掛けることが可能(16,000人程度で安定)である。
- とは言え、人口構造の高齢化により、今後も長期にわたって死亡数が多い時期が続くため、人口減少に歯止めが掛かるのは2100年以降であり、出生改善&移動均衡の実現から40年以上を要することとなる。
- 出生改善&移動均衡の実現は容易ではないが、持続可能性の観点からの必要条件と言える**人口減少プロセスからの脱却に向け、人口減少対策に取り組んでいく必要がある。**